

ぶんかざい おおた

平成 29 (2017) 年 10 月発行
大田区教育委員会大田図書館文化財担当



文化財保護
強調週間

Cultural Properties Protection Week

第20号

目次

◆トピックス	
東京都指定有形文化財「紙本着色新田大明神縁起絵」の修理	1
◆平成28年度事業報告	2
◆コラム	
現代にのこる「新田」の足跡	3
デジタルと文化財	4
◆数字で見る大田区の文化財	7
◆ご案内	8

文化財は、わが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことのできない国民共有の財産であり、将来の生活・文化の向上発展の基礎をなすものとされています。

大田区教育委員会文化財担当では、貴重な郷土の歴史遺産である文化財の保護と活用のために、様々な活動を行っています。

例年、10月1日から11月30日までは『東京文化財ウィーク』の事業期間です。区内でも各種の行事が開催されます。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

トピックス 東京都指定有形文化財「紙本着色新田大明神縁起絵」の修理

東京都の文化財に指定されている新田神社宝物「紙本着色新田大明神縁起絵」は、作品を後世に永く伝えていきたいという神社のご意向でこのたび修理を行いました。

修理内容は作品の保護を優先し、ただ傷んだ箇所を補修するのではなく、一度解体し丁寧に汚れの除去やシワ伸ばし等の処理をして新たに貼り直すという大規模なものでした。また、今後のために作品に極力負担をかけないように、伝統的な手法や素材が用いられました。

なお、本修理は平成28年度東京都文化財保存事業により都からの一部補助金を受けて実施されたものです。



修理前（左）と修理後（右）の縁起絵（部分）【画像提供：半田九清堂】

平成28年度事業報告

①文化財公開見学会

平成28年度文化財公開見学会は、秋の東京文化財ウィーク事業として2回開催されました。

第1回は10月29日(土)に御嶽神社(北嶺町37-20)で開催された、新たに国登録文化財となった「社務所」「水行堂」「御嶽神社末社一山神社祖霊社」の3棟、および「社殿彫刻(区指定文化財)」を解説とともに見学する「御嶽神社～神社建築の魅力に触れる～」です。川島智生氏(京都華頂大学教授)を講師にお招きし、参加者の皆様に境内をご案内していただきました。



「御嶽神社」見学会の様子

第2回は10月30日(日)に延命寺(矢口2-26-17)で開催された、通常は5、7、10月の24日のみ演奏される東京都指定無形民俗文化財「双盤念仏」を解説付きで鑑賞する「双盤念仏って何でしょう」です。講師の坂本要氏(筑波学院大学客員教授、大田区文化財保護審議会委員)の解説のもと、荘厳な雰囲気の中で40分間にわたる双盤の様々な音色に聴き入りました。



「双盤念仏」見学会の様子

なお、今年度も10月29日(日)に双盤念仏の特別公開が実施されます。参加を希望される方は文化財担当(03-3777-1281)までお問い合わせください。ただし定員に達し次第締め切らせていただきますのでご了承ください。

②文化財講演会

平成28年度文化財講演会は平成29年1月21日(土)に、「大田区の祭囃子いまむかしー伝承と地域の交流ー」と題し、高久舞氏(國學院大學研究開発推進センター客員研究員)にお話をしていただきました。

本講演会は平成27年度刊行の『大田区の文化財』第41集「大田区の祭り・行事、民俗芸能調査集録」にちなんで開催されたものです。



文化財講演会の様子

③歴史的建造物現況確認調査

大川三雄氏(日本大学特任教授、大田区文化財保護審議会委員)を代表とする大田区歴史的建造物調査会への業務委託事業として、区内に現存する歴史的建造物の現況確認調査を実施しました。

歴史的建造物は、まち歩き等の対象として親しまれている一方、近年はその維持管理が困難であることから建て替え等で解体される例も少なくなく、そうした現況を把握するために定期的な調査が行われています。

調査成果は『大田区の文化財』第42集として刊行予定です。

④「新田大明神縁起絵」について

東京都指定有形文化財「紙本着色新田大明神縁起絵」は、卷子装・上下二巻からなる大和絵風の絵巻物で、本紙の全長は上巻が約14m、下巻が約12mに及ぶ大作です。「新田大明神」とは、新田神社の祭神である新田義興（1331-1358 新田義貞の次子）のことで、その波乱に満ちた一生と憤死後の祟りが精巧な筆致で極彩色に美しく描かれています。

徳川將軍家が新田氏の出であると称したことから、江戸時代の新田神社は徳川家をはじめ多くの武家から信仰を集め、延宝4年（1676）松平政種^{まさたね}によって本作品が寄進されました。詞書の撰文は林大学頭春斎^{だいがくのかみしゅんさい}、筆者は上野佐兵衛^{かほく}、画師は上野加トと書かれています。佐兵衛

と加トについては詳細がわかっていません。なお、神社境内にはそのほか、延享3年（1746）に松平頼寛^{よりひろ}が「新田神君之碑（区指定文化財）」を建立しています。

昭和38年（1963）3月19日に東京都の文化財に指定され、これまで神社宝物殿において展示状態で保管しながら、毎年10月10日の例祭時には一般に公開されてきました。

修理直後はまだ環境の変化に弱い状態のため、安定するまで数年を要しますが、将来的には神社以外での公開も行い、区内・区外はもちろん海外の方々にも見ていただける機会を設けられるよう、大田区教育委員会としても協力していく予定です。

コラム 現代にのこる「新田」の足跡

新田神社（矢口1-21-23）の鎮座する武蔵新田駅を中心とした鶴の木～矢口地域には、かつてこの地で謀殺されたと言われる新田義興に関連する史跡や伝説が今なお数多く残されています。

『太平記』によれば延文3年（1358）10月10日、義興は所領の上野国（群馬県）から足利基氏（足利尊氏の子）のいる鎌倉に攻め入る途中、江戸遠江守、竹沢右京亮らに謀られ、矢口の渡しで13人の家臣とともに悲惨な最期を遂げました。義興の死後七日七晩は雷が鳴り続いたと言われ、「光り物（怨霊）」となって人々を悩ませたため、これを鎮めるために墳墓が築かれ、社祠が建てられました。そして「新田大明神」として崇められ、ここに新田神社が起りました。



怨霊となった新田義興（「新田大明神縁起絵」より抜粋）

この事件で、乗っていた舟を沈めた船頭が罪を悔いて建てた、またはたたりで死んだ船頭のために建てたと伝わるのが「俗称頓兵衛地藏（下丸子1-1-19 区指定文化財）」です（頓兵衛は平賀源内の浄瑠璃『神霊矢口渡』に登場する人物）。鶴の木の光明寺池から新田神社の裏手にかけてかつての多摩川の蛇行跡を見ることができ、頓兵衛地藏付近が土手沿いであったことがうかがえます。このことから、当時の「矢口の渡し」もこの辺りであったと考えられています。



頓兵衛地藏

また、義興の家臣13人のうち、舟上で戦死した10人が十寄神社（矢口2-17-28）に、対岸の敵中に斬り込み戦死した3人が妙蓮塚三体地藏（下丸子2-1-8）にそれぞれ祀られています。妙蓮塚は上記の多摩川蛇行跡の西側に位置しており、対岸側に埋葬されたことがわかりま



十寄神社



妙蓮塚三体地蔵

す。

この他、義興を茶毘に付して出た灰を集めて祀ったと言われる灰塚が、「しいの古木（千鳥3-11-16 区指定文化財）」の樹下にあります。ここからは中世の板碑が出土しており、現在も塚上の祠に祀られています。

一方、義興を謀った江戸遠江守については、義興の

怨霊姿に驚いて落馬し、七日七晩溺れる真似をしながら狂って亡くなり、光明寺内にある荒塚（鶉の木1-23-10）に葬られたと伝えられています。荒塚は平成5年度の発掘調査等により、6世紀前半に古墳として造られ、誰が埋葬されたかまではわかりませんが、江戸時代末期まで墓地として利用されていたことが判明しています。

〔田島 太良〕

コラム デジタルと文化財

開発などの都市化による社会の発展は、生活を便利にしましたが、その代償として地域に根付いた歴史や文化を知る上で貴重な文化財を失うことも多く、大田区もその例外とは決して言えない状況にあります。

記録保存調査によって姿を消した文化財の代替となるものが調査報告書です。現地に建物や遺構を残すことができない記録保存調査において、その内容や価値を正しく後世に伝えるためには、精度の高い情報の記録が必要になります。

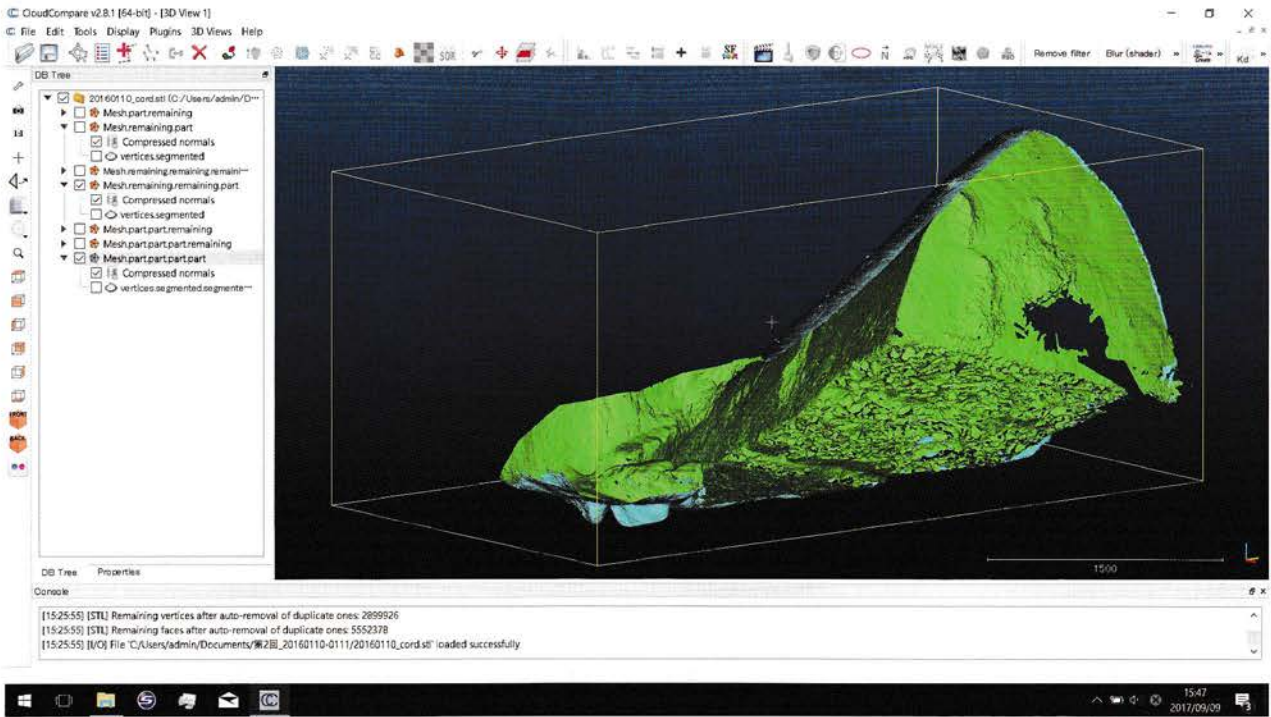
近年、科学技術や電子機器の急速な進歩に伴い、我々の日常生活にもデジタル化が進んでいます。文化財は、古文書などの紙資料を除くとそのほとんどが立体物であり、三次元情報を持っています。しかし、そうした資料を調査した記録は、いわゆる二次元の紙ベースの報告書として刊行されることが一般的です。しかし、ここ十数年の間に、文化財の調査・研究の現場において、デジタル化が普及してきました。埋蔵文化財（遺跡）の発掘調査の現場でも、検出遺構や出土遺物の記録（計測）などに積極的に導入され始めています。

かつては平板で行っていた古墳・堅穴住居などの遺構の測量や、定規、真弧、ディバイダーやキャリパーを用いて方眼紙に作図していた石器や土器などの遺物の実測

も、最近ではコンピュータ制御の測量機器（トータルステーションなど）やレーザースキャナーによる三次元計測などの手法が取り入れられるようになってきました。フィルムカメラで撮影していた写真も、デジタルカメラによる記録が主体となりました。手書きの実測図を墨入れ（トレース）し、糊やハサミを使って図版を作成していた報告書は、今ではPhotoshop、IllustratorやInDesignといった描画・編集ソフトを使ってパソコンの画面上で作成し、デジタルデータで印刷所に入稿するのが一般的になっています。

デジタル技術の特性として、情報の精確性・客観性・等価性などを挙げることができますが、とりわけ遺跡調査の現場に三次元計測などの技術を用いることで、調査期間を短縮できるというメリットがあります。また、遺構を精緻に再現できるため、定量的かつ構造的な分析に向いており、作成された三次元モデルは博物館のバーチャル展示など、教育・普及における活用も期待されています。

大田区教育委員会では、記録保存調査をはじめ、過去の出土遺物の調査・研究において、大学などの教育・研究機関の助力を得ながら、デジタル技術を用いた文化財資料の記録に積極的に取り組んでいます。



山王横穴墓群の三次元計測データ（横穴墓の内部を斜め上から見たもの）

※ CloudCompare を用いて作成

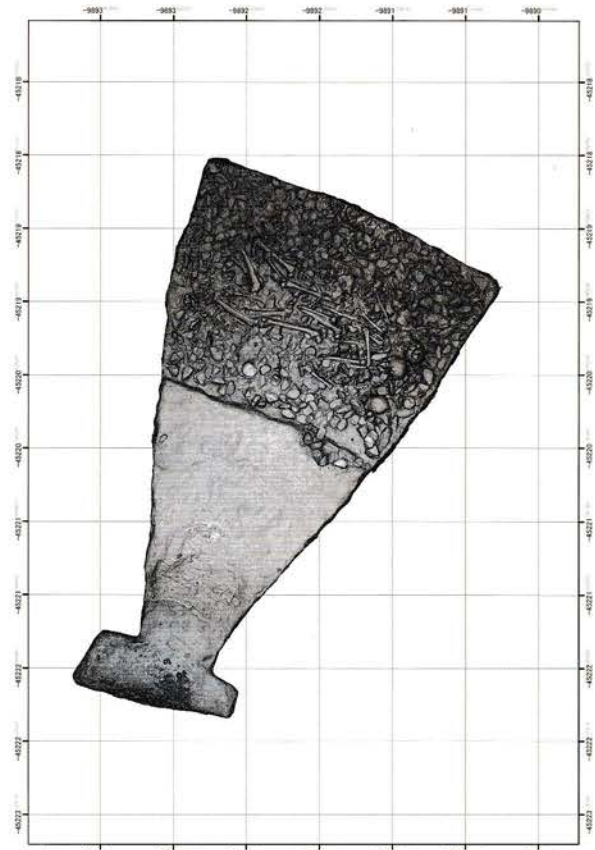
平成 25 年度に実施した新井宿横穴墓群の発掘調査では SfM (Structure from Motion; デジタルカメラで撮影した写真から三次元モデルを生成する方法)、平成 27 年度の山王横穴墓群の発掘調査では、SfM に加えて、レーザースキャナーによる 2 基の横穴墓の三次元計測を実施しました。また、過去に出土した考古資料（三島塚古墳出土埴輪など）の三次元計測も行っています。

遺構や遺物を詳細に記録することによって、これまでの手書きの実測図では表現に限度があった遺構の構築技術や遺物の製作技術がはっきりと観察できるようになりました。特に、横穴墓のような地下に空洞が残る遺構の内部を精確に記録するためには、三次元計測はきわめて有効な手段であるといえます。

もちろん、こうしたデジタル技術にも様々な課題があります。急激に進む技術開発のため、データを扱う機器や OS・ソフト・ファイル形式などが絶え間なく更新される状況において、将来にわたってデータの保存と再現がどこまで可能なかといった問題や、突発的なデータの破損・消失といった恐れもあり、保管方法や維持・管理体制をどのようにして構築するかといった問題もあります。

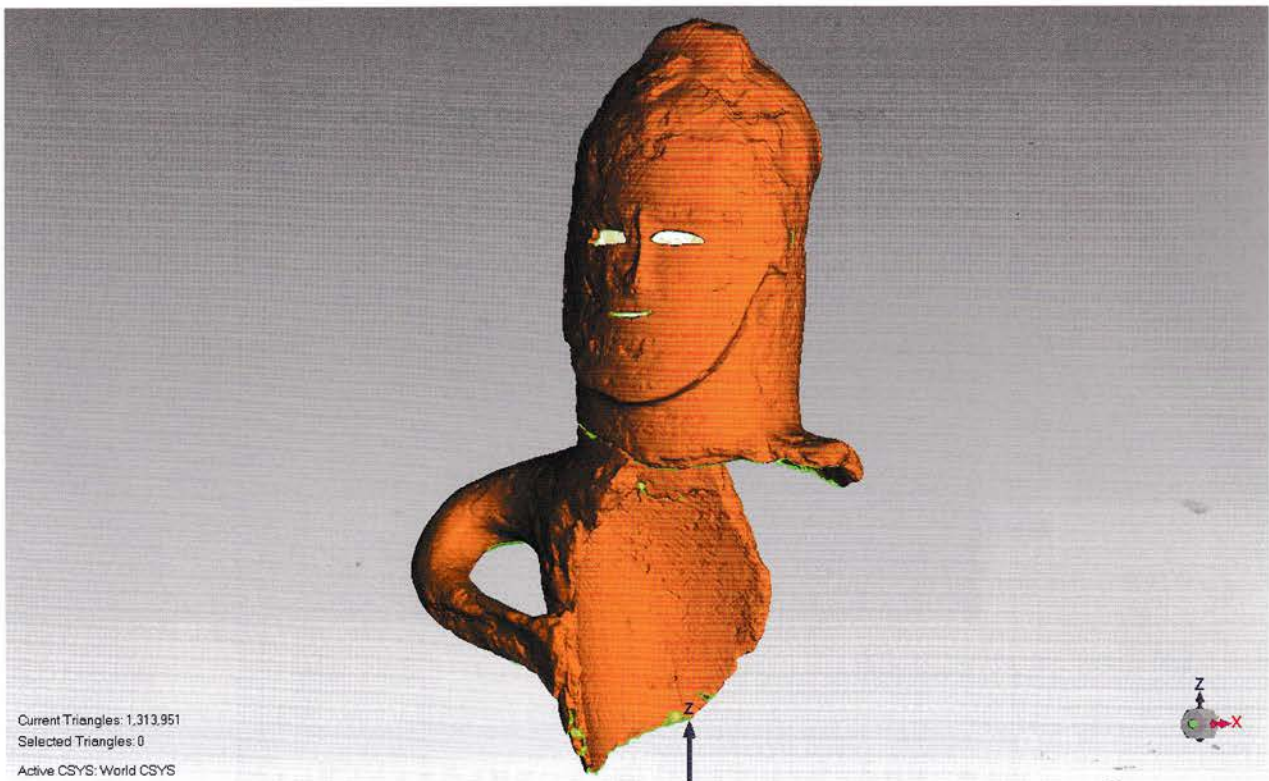
また、比較的安価なものも徐々に登場してきているとはいえ、数十万円から数百万円、時には数千万円する機器やソフトへの設備投資は、個人はもとより、区市町村や民間調査機関にはハードルが高く、最新機器やソフトの導入は、一部の研究・教育機関に留まっているのが現

状です。さらには、従来から行われてきた調査・研究方法との整合性や位置付けをどのように考えていくのかも重要です。



SfM とレーザースキャナーによる横穴墓の計測データ（横穴墓の三次元画像を真上から見たもの）

※ ArcGIS を使用して早稲田大学文学部考古学コース作成



三島塚古墳から出土した人物埴輪の三次元計測データ(三次元画像を斜め横から見たもの)

※ Geomagic Control を使用して早稲田大学文学部考古学コース作成

しかし、新しい技術の導入によって、これまで分からなかった文化財の情報やその歴史的背景が明らかになることが、文化財の保護に役立つと考えています。

ことは、学問、教育、地域など、多方面への波及効果をもたらします。デジタル技術の特長を活かしながら、文化財の重要性や魅力を改めて多くの人々に発信していく

【伝田 郁夫】

参考文献

- 小林和樹・石井友菜・根本 佑 2016 『3D 考古学の挑戦—考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題—』開催報告『WASEDA RILAS JOURNAL』NO. 5、早稲田大学総合人文科学研究センター
- 城倉正祥 2016 「デジタル技術と考古学」『潮航』第 34 号、早稲田大学大学院文学研究科考古談話会
- 城倉正祥 2017 『デジタル技術でせまる人物埴輪—九十九里の古墳と出土遺物—』、吉川弘文館
- 城倉正祥編 2016 『山室姫塚古墳の研究—デジタル三次元測量・GPR 調査報告書—』(『早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所 調査研究報告』第 1 冊)、早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所
- 城倉正祥編 2017 『殿塚・姫塚古墳の研究—人物埴輪の三次元計測調査報告書—』(『早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所 調査研究報告』第 3 冊)、六一書房
- 城倉正祥・青木 弘・伝田郁夫編 2017 『デジタル技術を用いた古墳の非破壊調査研究—墳丘のデジタル三次元測量・GPR、石室・横穴墓の三次元計測を中心に—①埼玉県東松山市野本將軍塚古墳・②埼玉県東松山市附川 7 号墳・③埼玉県東松山市若宮八幡古墳・④埼玉県行田市地藏塚古墳・⑤東京都大田区新井宿横穴墓群・⑥東京都大田区山王横穴墓群』(『早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所 調査研究報告』第 4 冊)、早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所
- 城倉正祥・青笹基史 2015 「千葉県栄町龍角寺 50 号墳のデジタル三次元測量・GPR 調査」『WASEDA RILAS JOURNAL』NO. 3、早稲田大学総合人文科学研究センター
- 城倉正祥・平原信崇・渡邊 玲編 2016 『3D 考古学の挑戦—考古遺物・遺構の三次元計測における研究の現状と課題—』、早稲田大学総合人文科学研究センター
- 中園 聡編 2017 『特集 3D 技術と考古学』(『季刊考古学』第 140 号)、雄山閣
- ナワビ矢麻 2015 「多手法を用いた横穴墓の調査—大田区山王の事例—」『文化財の壺』Vol. 4、文化財方法論研究会
- 平原信崇・伝田郁夫・城倉正祥編 2016 『殿塚・姫塚古墳発掘 60 周年記念 甕の九十九里の埴輪群像—3D 考古学の挑戦—』、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
- 埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会編 2017 『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について 1』(報告)、文化庁

数字で見る大田区の文化財

平成 29 (2017) 年 4 月 1 日現在

文化財の種類・種別		区指定	都指定	国指定 ^{*1}	国登録	計	主な文化財（【種別】指定名称）
有形文化財	建造物	9	1	2	22	34	【重文】本門寺五重塔、池上本門寺宝塔、【国登】万屋酒店、昭和のくらし博物館（旧小泉家住宅主屋）、【都】武家屋敷門、【区】総門、経蔵、社殿彫刻
	絵画	4	1			5	【都】紙本着色新田大明神縁起絵、【区】釈迦涅槃刺繍画像、観世音菩薩絵馬
	彫刻	29	4	1		34	【重文】日蓮聖人坐像、【都】葉師如来坐像、【区】阿弥陀如来及び両脇侍立像、青面金剛及び二童子四夜叉立像、妙見菩薩立像
	工芸	3				3	【区】総門の扁額、馬具、柄香炉
	典籍	2	1			3	【都】法華経版木、【区】天海版一切経、法華経（紺紙金泥写経）
	書跡						
	古文書	7	9	1		17	【重文】兄弟抄、【都】平川家文書、【区】北川家文書、加藤家文書など
	金石文 ^{*2}	27				27	【区】梵鐘、板碑群、狛犬、森ヶ崎鉱泉源泉碑、海難供養塔、道標など
	歴史資料	1				1	【区】郷倉
	考古資料						
	小計	82	16	4	22	124	
無形文化財〈認定〉	芸能			〈1〉		〈1〉	【重文】箏曲の〈各個認定〉 ※他に〈総合認定〉能楽1件
	技能			〈1〉		〈1〉	【重文】刀剣研磨の〈各個認定〉
有形民俗文化財		14		1		15	【国】大森及び周辺地域の海苔生産用具、【区】富士塚、庚申供養塔など
無形民俗文化財	民俗芸能	1	1			2	【都】水止舞、【区】六郷神社獅子舞
	風俗慣習	1	2			3	【都】流鏝馬、双盤念仏、【区】除病習俗
	小計	2	3			5	
記念物	史跡	18	4	2		24	【国】大森貝塚、【都】多摩川台古墳群、奥絵師狩野家墓所、【区】磐井の井戸、勝海舟夫妻墓所など
	旧跡 ^{*3}		4			4	【都】新宿義民六人衆墓、鶴木大塚古墳など
	名勝	1				1	【区】洗足池
	天然記念物	2	1			3	【都】秋葉のクロマツ、【区】しいの古木、清水窪湧水
	小計	21	9	2		32	
計		119	28	7 〈2〉	22	176 〈2〉	

^{*1} 国指定（重要文化財＝重文）は、個人所有を除く。^{*2} 有形文化財の「金石文」は大田区独自の分類。^{*3} 記念物の「旧跡」は東京都独自の分類。

ご案内

東京文化財ウィーク

文化の秋、都内全域で文化財をより身近に感じていただくため、国・都指定文化財をお見せする特別公開事業のほか、各区市町村等による文化財に関連した企画事業が行われます。大田区内では、下記の事業を行います。

特別公開事業★

10月28日(土)～11月5日(日)

企画事業★

10月1日(日)～11月30日(木)

文化財公開見学会「大坊本行寺の歴史と宝物」★

「法華経版木」の特別公開に合わせ、本行寺の歴史や宝物にまつわる話をさせていただきます。本行寺と大田区教育委員会とのタイアップ事業です。

日時 11月3日(金・祝) 午後2時～午後4時
会場 大坊本行寺(池上2-10-5)
問合せ先 大田図書館文化財担当(TEL 03-3777-1281)

特別公開「双盤念仏」★

日時 10月29日(日) 午後2時～午後4時
会場 延命寺(矢口2-26-17)
問合せ先 大田図書館文化財担当(TEL 03-3777-1281)

文化財保護強調週間記念「文化財写真パネル展」★

平成28年度の文化財に関する主な事業を写真と解説文で紹介いたします。

日時 10月30日(月)～11月1日(水)
会場 大田区役所1階ロビー

大田区内の文化財公開

①大坊本行寺(池上2-10-5)

- ・「法華経版木」都指定有形文化財(11月3日のみ)
※上記、文化財公開見学会を参照。
- ・「日蓮上人入滅の旧跡」都指定旧跡
通年公開 午前9時30分～午後4時

②池上本門寺(池上1-1-1)

- ・「本門寺五重塔」重要文化財(建造物)
外観のみ公開 午前9時～日没
- ・「池上本門寺宝塔」重要文化財(建造物)
外観のみ公開 午前9時～日没
- ・「奥絵師狩野家墓所」都指定史跡
通年公開 午前9時～日没

③多摩川台公園(田園調布1-63-1)

- ・「亀甲山古墳」国指定史跡
- ・「宝萊山古墳」都指定史跡
- ・「多摩川台古墳群」都指定史跡
通年公開 午前9時～午後4時30分

④大森 海苔のふるさと館(平和の森公園2-2)

- ・「大森及び周辺地域の海苔生産用具」重要有形民俗文化財
通年公開 午前9時～午後5時
ただし、第3月曜(祝日の場合は翌日)及び年末年始を除く。
6～8月は午後7時まで。

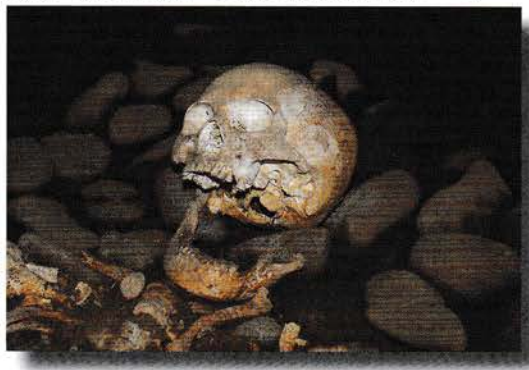
刊行物のご案内

『南久が原二丁目4番横穴墓Ⅰ 久ヶ原遺跡Ⅵ 発掘調査報告』(『大田区の埋蔵文化財』第23集)

平成25年度および26年度に実施した2遺跡の発掘調査報告書。新発見の南久が原二丁目4番横穴墓、遺跡の北部で弥生時代後期の竪穴住居跡などを検出した久ヶ原遺跡の調査成果を収録。

規格 A4判・54ページ 販売価格 900円

販売場所 郷土博物館・区役所2階区政情報コーナー



平成29年10月

大田区教育委員会大田図書館文化財担当 編集・発行

〒143-0025 東京都大田区南馬込五丁目11番13号(大田区立郷土博物館内)

TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283